



## 河野達郎 街づくり写真家

1954年松山市生まれ

実の父親は萩市出身の僧侶でその直系。1歳半で大洲市役所に勤めていた育ての父親に引き取られ、大洲市で育つ。

1998年から大洲市の街づくりに携わり2019年退任。その後の写真家への道は、育ての父親がカメラを持っていたことがきっかけで志した。

ライフワークは、今日の私に育てていただいた地域に写真でお返しをすること。生涯の撮影テーマは、故川本征紀師匠に教わった「写真は語る、その瞬間の物語」。

地域創生撮影（被写体の「迫力と美しさや繊細さ」を記録と表現という視点から「情報素材と作品」に使い分けができる撮影による地域貢献）及び撮影した写真を活用した地域情報発信が専門。得意分野は肱川あらしを含む肱川流域の自然現象だが、業務依頼による撮影分野は多岐にわたる。使用している機材はSONY。

### ■主な撮影実績

愛媛県、大洲市及び周辺市町からの地域情報素材撮影及び情報発信業務受託。石畳つなぐプロジェクト、佐田岬観光公社などの活動サポート及び撮影。佐川印刷株式会社が展開するデジタル壁紙事業において、松山商工会議所やRICOHジャパン愛媛支社の会議室壁面用素材として松山城下を撮影した写真が採用されている。また、愛媛新聞旅行の公式サイトトップページの「愛媛ツウのオススメスポット」コーナーを担当、大洲市の公式カレンダー撮影担当。クラブツーリズム撮影ツアー講師、ソニーαアカデミー写真撮影講座での講師等、活動範囲は広い。その他書籍出版物掲載多数。

### ■主な活動歴

1998.09 / 大洲市中心市街地活性化に伴う街づくりに携わり活動を始める。

2016.01 / 写真集「ひじかわの詩」発行（SPC出版）

2017.01 / 伍代夏子さんの「肱川あらし」CDの背景写真に撮影した肱川あらしの写真が採用される。

2017.02 / 会社にて朝の打合せ後、心筋梗塞を発症し倒れるも関係者の迅速な対応で運良く生還する。

2018.02 / 肱川あらし撮影にNHKのカメラが同行し、「白き竜よ舞え」として放映され話題に。

2019.04 / 新しい街づくり組織に事業承継して退任し、フリーの写真家活動を開始する。

2021.04 / 第40回愛媛広告賞 最優秀賞受賞（大洲市観光ポスター）／愛媛広告協会

2022.01 / 初の新春個展「甦る」を開催（おおず赤煉瓦館別館）

2022.07 / 写真展「写真は語る」をソニーストア大阪αギャラリーにて開催

2022.11 / 写真展「写真は語る」の巡回展を萬翠荘百周年記念行事の一環で開催

2023.01 / 2回目の新春個展「写真は語る」を開催（おおず赤煉瓦館別館）

2023.11 / 写真展「山河の軌跡」をソニーストア大阪αギャラリーにて開催

2024.01 / 3回目の新春個展「時代の軌跡」を開催（おおず赤煉瓦館別館）



公式サイト

所属：日本風景写真家協会（JSPA / 東京）・SONY Imaging PRO SUPPORT

河野達郎街づくり写真事務所